

●全国学力学習状況調査(小6)

課題の見られた問題の概要	結果
平仮名で表記されたものをローマ字で書く。	43. 1%
目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。	44. 4%
グラフを基に、分かったことを的確に書く。	50. 0%
目的に応じて、質問したいことを整理する。	54. 2%

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(小5)

課題の見られた問題の概要	結果
聞きとるべき内容を判断し、メモを取りながら聞く	61. 4%
筆者の考えを理解し、目的に応じてまとめた文章を考える	22. 8%
相手や目的に応じて書きたいことが適切に伝わるように書くことができる	17. 1%
指示語が指し示すものを的確に捉えることができる	54. 3%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・国語への関心が高く、意欲的に学習に取り組む様子がうかがえる。 ・場面の移り変わりを捉えたり、中心となる語や文を捉えたりするなど、文学的文章での「読む力」が高い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えを文章から読みとることができずに正答できなかった児童が多いと思われる。 ・相手や目的に応じた文章を書く力が不足している。 ・指示語が何を指し示すのか捉える練習が必要と思われる。

●調査結果を踏まえて学校全体で取り組む内容

<ul style="list-style-type: none"> ・文章の読み取り方の具体的指導を学年の発達段階に合わせ、低学年から積み重ねていく。 ・文章表現の仕方を段階的に行っていくとともに、文章表現をする機会を国語以外の教科等でも意図的に設定していく。

●調査結果を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	読書、音読をすることに意欲的に取り組む。簡単な文章を書くことに個人差がある。文章を正確に読み取れるよう学習中である。	文章を書く機会を多く設定するとともに、具体的な書き方の指導を積み重ねる。読書活動の時間を確保し、文に親しませる。書かれている言葉に着目し、正しく読めるよう指導する。
2年生	相手意識をもって文章を書く経験が少ないため、苦手意識を持つ児童が少なくない。	相手意識を持って文章を書く経験を多く設定する。指示語が何を表わしているかを確認しながら文章を読ませる。
3年生	長文読解に苦手意識がある。読書量にも差があり、語彙が豊かな児童とそうでない児童との差が大きい。	分かりやすい説明文を使って中心となる語彙を捉えて、段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて読むことを意図的に行う。辞書の活用を日常化して語彙力を高める。
4年生	文章を書くことに対して苦手意識をもっている児童とそうでない児童との差が大きい。伝えたいことを明確にして文章を書く力が弱い。	相手や場面に応じて文章を書く時間を多く設定する。また、国語辞典の活用を日常化し、語彙力を高める。
5年生	相手や目的に応じて書きたいことを適切な言葉を使って書いたり、目的に応じてまとめた文章を考えたりすることが苦手な児童が多い。	相手や目的に応じて文章を書く活動を多く設定する。
6年生	平仮名で表記されたものをローマ字で書くことや、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む力が不足している。	ローマ字を生活の中で進んで読んだり書いたりする機械を増やす。目的によって活用の仕方が変わり、その為引用したり要約したりする部分に変化するというを実感できるよう継続的に指導する。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
国語への関心は高く、読んだり表現したりすることを好む低学年の姿も見られる。また、読書に向かう姿勢が定着している。	読むこと・書くことに苦手意識がある児童がどの学年においても少なくない。各学年での指導事項を確実に身に付けさせるような手立てが必要である。

●学校全体で取り組む内容

<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルを活用して漢字の読み書きや言葉の使い方をくり返し練習することで、言語事項の力を付ける。 ・物語文・説明文それぞれ読解方法、文章の書き方の指導を段階的に行っていく。 ・聞く・話す活動を意図的に取り入れていく。
--

●本校の実態を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	読み聞かせを聞くこと、教科書の音読をすることに喜んで取り組む。文章を書くことに苦手意識をもつ児童がいる。	文章を書く機会を多く設定するとともに、具体的な書き方の指導を積み重ね習熟を図る。読書時間を継続して確保し、文章に慣れ、読み取り速度をあげ、内容理解につなげていく。
2年生	音読や絵本などの読み聞かせの活動については意欲的に取り組めるが、物語文・説明文の読解力に苦手意識がある。また、書くことにも課題がある。	基本的な用語を確認しながら、物語文・説明文の読解の基本を指導する。文章を書く機会を多く設定するとともに、具体的な書き方の指導を積み重ねることで書くことへの自信をもたせ
3年生	語彙が豊かな児童とそうでない児童との差が大きい。長文読解に苦手意識がある児童が多く、書く能力についても差が大きい。	分かりやすい説明文を使って中心となる語彙を捉えて、段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて読むことを意図的に行う。辞書の活用を日常化して語彙力を高める。
4年生	読書が好きな児童が多く、積極的に読み物に触れている。相手を意識して、分かりやすい文章を書く力が弱い。	国語辞典を日常的に活用したり、東京ベーシックドリル等を活用したりして語彙を習得させる。目的に応じて文章を書く活動を多く設定する。
5年生	相手や目的に応じて適切な言葉を使って書く力が不足している。言語事項は領域によって定着度に差がある。	国語辞典・漢字辞典等を活用して語彙の習得、作文・視写等「書く」ことに慣れる指導を行う。言語事項は、東京ベーシックドリル等を活用した熟語・慣用語等の習熟を図
6年生	漢字やローマ字等の言語事項について、読み書きの定着が不足している児童がいる。また、目的に応じて事象や意見などを関連づけながら書く力が課題である。	辞書を利用する能力や態度を育て、調べる習慣を付けさせる。筆者の考えに対して、自分の知識や経験、考えなどと関係付けながら読んだり書いたりする場を意図的・計画的に設定する。

